

中国文化知識の基礎研究其一：伝統童蒙教育課本 『幼學瓊林』初探 下：天文篇の検討

甲斐, 勝二
福岡大学人文学部：講師

東, 英寿
九州大学文学部：助手

<https://hdl.handle.net/2324/1546578>

出版情報：福岡大学総合研究所報. 123, pp.263-289, 1990-03. 福岡大学総合研究所
バージョン：
権利関係：

伝統童蒙教育課本『幼學瓊林』初探 下（天文篇の検討）

東 英寿 甲斐 勝二

初探下篇では、『幼學瓊林』の天文篇を取り上げ、鄒聖脈の注を組上に上せて考察を加える。鄒聖脈の注を取り上げたのは、上篇に述べられたようにこの注が最も詳しかったこと、また、日本でも明治期に草場船山の序文を持つ訓点本が刊行されていることからである（資料篇一参照）。本篇では、鄒聖脈の注原文とその拠り所を示し、『幼學瓊林』レベルの注釈者の学術水準を示すとともに、通俗類書の注の性格もあわせて具体的に明らかにしようとするが、力不足に加え遺漏も数多くあると思われる。はたしてそれが成功したかどうか、大いに危惧する次第である。

凡例

- 一 テキストは長沙岳麓書社刊の『幼學瓊林』をもちいる。最も出版数が多く現在入手し易い為である。ただし、該書の字体は簡体字に改められているが、ここでは原書の字体である繁体字に改めた。
- 二 本文の校勘については、俗書の性格上簡略にとどめ、明らかに誤記であると思われる箇所は、その下に正しいと思われる記述を（ ）に

入れて示す。また、表現の差が特に大きい場合は別に記した。尚、鄒聖脈増加本文については、参考までに道吾山房主人序文を持つ『幼學瓊林』との異同を示した。

三 訓読は、原則として和刻本に従っている。ただし、読み易いように改めたところもある。

四 鄒聖脈の注は、底本の原文をそのまま提示した。通俗類書の注が如何なる表現体を取るのかを明示できるからである。尚、鄒聖脈の注の校勘は必要最少限に止める。

五 「考」は鄒聖脈の注について、その基づくところの原書・原文を挙げようとする。ただし、鄒聖脈は他の類書を見て注を付けている気配があり、必ずしも原典より直接の引用でない部分が多いようである。なお「釈」は鄒聖脈の釈文。

六 付録として、筆者が集め得た幾つかの注釈を各条の後ろに、以下の順序で配した。但し、音注は省略した。

〔盧〕は和刻本『新鐫詳解丘瓊山故事必讀成語考』（元和辛酉一六八一の序文）の注で盧元昌の注と言われるもの。ただし、本文上段に付け

られた注文のみ。本文脇に細字で付けられた注文は簡略なもので省略した。

(三)は『故事成語考集註』日本三宅元信の注(寛政元年一七八九序文)。静嘉堂文庫蔵本による。

〔錢〕は『育正堂幼學須知』錢元龍校正(長崎大学蔵)に付けられた錢氏序文(乾隆一七五七)に謂うところの「黃君之箋」。人物未詳。

〔周〕は『増補幼學故事羣芳』清周達用の注(乾隆四三年序一七七八)。鄒聖脈の注にほぼ同じ。鄒聖脈の序文には同文ながら年代の異なる二

種のものがあり、古いほうの年代(草場本乾隆二五年一七六五)が正しいとすれば、鄒聖脈の後に出了たものであり、新しい方の年代(嘉慶元年一七九六)を正しいとすれば、鄒聖脈に先立つことになる。鄒聖脈の注によく類似するので、影響関係があるのは明白に見えるが、或

いは共に別のものを襲ったのかもしれない。

七 付録として、①周達用が増加した本文と、②上海復旦大学出版社刊行の『幼學瓊林』が鄒聖脈の増加本文にさらに増加した部分を、最後に挙げる。

天文篇

一 混沌音渾初開、乾坤始奠。

訓読 混沌初めて開き、乾坤始めて奠まる。

鄒注 混沌、元氣也。陰陽未分之象。乾、地也。奠、定也。

〔易〕太極生兩儀、兩儀未分、其氣混沌如雞子。盤古氏出則天地

之道、達陰陽之理。於是伏者爲天、偃者爲地。天尊地卑、乾坤定矣。〔釋〕兩儀、天地也。雞子即雞卵。盤古猶言盤固。

考 ①易、繫辭傳上：是故易有太極、是生兩儀。

②藝文類聚、天部上、天：徐整三五曆紀曰天地混沌如雞子、盤古生其中。萬八千歲。天地開闢、陽清爲天、陰濁爲地。

太平御覽、天部一、元氣：河圖曰元氣無形、洵洵蒙蒙。偃者爲地、伏者爲天也。

③易、繫辭傳上：天尊地卑、乾坤定矣。

諸家注

〔盧〕なし。

〔三〕混沌者陰陽未分之象。乾者、天也。坤者、地也。故謂天地曰乾坤。奠、定也。

〔錢〕混沌者陰陽未分之象。尊、定也。謂混沌開闢而乾坤乃定也。乾爲天、坤爲地。

〔周〕混沌猶渾淪也。陰陽未分之象。乾爲天、坤爲地。奠、定也。

〔易〕太極生兩儀、兩儀未分、其氣渾沌如雞子。盤古氏出、明天地之道、達陰陽之理。於是伏者爲天、偃者爲地。天尊地卑、乾坤定矣。〔釋〕盤古氏爲開闢首君。生於太荒之時。雞子即雞卵也。

二 氣之輕清上浮者爲天、氣之重濁下凝者爲地。

訓読 氣の輕清上浮する者天と爲り、氣の重濁下凝する者地と爲る。

鄒注 〔說文〕天地者、陰陽之府也。神者、天之陰精。鬼者、地之陰氣。

天統開于子、輕清之氣、一萬八百年、浮而爲天。天之精華、凝

結而爲日月星辰。成象既著、功用乃行。地統開於丑、重濁之氣、一萬八百年、凝而爲地。地之靈氣、融結而爲山川河嶽。成形既定、胎靈攸召。^①〔釋〕氣、元氣也。凝、結也。

〔考〕①『說文解字』原文に該當箇所なし。

〔參考〕禮記、檀弓上：周人尚赤。注：以建子之月爲正、物萌色赤。疏：建子之月爲正者、謂之天統、以天之陽氣始生爲百物、得陽氣微稍動變、故爲天統。

禮記、檀弓上：殷人尚白。注：以建丑之月爲正、物牙色白。疏：建丑之月爲地統者、以其物已吐牙、不爲天氣始動、物又未出、不得爲人所施功、唯在地中、含養萌芽、故爲地統。

〔諸家注〕

〔廬〕なし。

〔三〕なし。

〔錢〕なし。

〔周〕氣、元氣也。凝、結也。天統開於子、輕清之氣升而爲天。天之精華凝結而爲日月星辰、燦然有成象之大觀。地統開於丑、重濁之氣凝而爲地。地之靈氣凝結而爲山川河嶽、顯然有成形之奠定。

三 日月五星、謂之七政、天地與人、謂之三才。

〔訓読〕 日月五星、之を七政と謂ひ、天地と人とのを三才と謂ふ。

〔鄭注〕 五星、金木水火土、合日月爲七政。

〔書〕 在璿璣玉衡、以齊七政。^①

天能覆物、地能載物、聖人載成輔翼、以助天地之所不及、而能

成物。蓋天地閒萬物羣生、惟人最貴、故人爲萬物之靈。氣稟陰陽、道敦化育、生生不已、與天地參、故曰三才。^②〔釋〕才、能也。

〔考〕①書經、舜典：正月上日受終于文祖。在璿璣玉衡、以齊七政。

②易、說卦傳：是以立天之道曰陰與陽、立地之道曰柔與剛、立人之道曰仁與義、兼三才兩之。故易六畫而成卦。

易、繫辭傳下：有天道焉。有人道焉。有地道焉。兼三才而兩之。故六。

〔諸家注〕

〔廬〕五星、金木水火土。

〔三〕五星、金木水火土、令日月爲七政。蓋逆行也。金爲太白星、木爲歲星、水爲辰星、火爲熒惑星、土爲鎮星。

〔錢〕五星、歲星屬木、熒惑星屬火、太白屬金、辰星屬水、鎮星屬土。亦名五緯。五行之精氣也。合日月爲七星。

〔周〕日爲陽精。月爲陰魄。五星、金木水火土也。

〔沈括云〕日月本無光。日耀之乃光耳。光之初生、日在其旁。故光側而所見纔如鉤、日漸遠則斜照而光漸滿。謂之政者、日月五星得失由政。故稱政焉。三才謂天地人。天能覆物、地能載物、聖人輔相裁成、有以助天地之不及而能成物。是其氣稟陰陽、道敦化育、生生不已與天地參。故曰三才。〔釋〕才、能也。

四 日爲衆陽之宗、月乃太陰之象。

〔訓読〕 日は衆陽の宗爲り、月は乃ち太陰の象。

鄒注〔天文志〕日爲太陽之精、主生養恩德、人君之象也。人君有暇、

必露其隱、以告示焉。月乃太陰之精、以之配日、女后之象也。

以之比象、刑罰之文、列之朝廷、諸候大夫之象也。^①

考①續漢書、天文志上、劉昭注：日者、陽精之宗。積而成鳥、象鳥

而有三趾。陽之類、其數奇。月者、陰精之宗。積而成獸、象兔。

陰之類、其數耦。

諸家注

〔盧〕なし。

〔三〕日乃太陽之精、月乃太陰之精。

〔錢〕〔廣雅〕陽精外發、故日以晝明。

〔史記〕太陰之精、上爲月。

〔周〕日爲太陽之精、人君之象也。月爲太陰之精、以之配日。女主之

象也。自盤古死後、左目爲日、右目爲月、此日月所山來也。

五 虹音江名 蟬音東 乃天地之淫氣。月裏蟾蜍音唐 是月魄之精光。

訓說 虹は蟬と名づけて、乃ち天地の淫氣。月裏の蟾蜍は、是れ月

魄の精光。

鄒注 虹、乃陰氣所爲。陽氣下而陰氣應、則爲虹。天地之淫氣、隨日

所映、朝西暮東。雄曰虹、其色赤白、雌曰霓、其色青白、常雙

出。蟾蜍似蝦蟆、背黑、壽三千歲、頭有肉角、領下有丹書八字。

後羿請不死之藥於西王母、其妻嫦娥、竊而食之、奔月宮、遂化

爲蟾蜍。月之光爲魂、月之質爲魄。

考①淮南子卷六、覽冥訓：譬若羿請不死之藥於西王母、姮娥竊以奔

月。

續漢書、天文志上、劉昭注：羿請無死之藥於西王母、姮娥竊之

以奔月。……姮娥遂託身于月、是爲蟾蜍。

〔參考〕說文解字十三篇上、虹部：虹、蟬也。

諸家注

〔盧〕日與雨交、條然成質而爲虹。有謂蟾蜍是后羿妻所化者。

〔三〕日與雨交、悠然成質、故曰虹。雨久而晚見于東方則晴、晴久而

早見于西方則雨。淫氣、謂不當交而交者。蟾蜍是月中如兔物也。

后羿請不死之藥于西王母、其妻嫦娥竊而食之、奔入月宮、遂化

爲蟾蜍、又號素娥。

〔錢〕〔詩經〕蟬在東。莫之敢指、卽俗所爲蟻也。

〔朱子曰〕日與雨交、條然成質。不當交而交者天地之淫氣也。雨

久而晚見於東則晴、晴久而早見於西則雨。

蟾蜍、月中三足物也。

〔王充・論衡〕羿請不死之藥於西王母。其妻嫦娥竊之奔月、是爲

蟾蜍。

〔周〕虹乃陰氣所爲。陽氣下而陰氣應則爲虹。天地之淫氣隨日所映。

朝西、暮東。雄曰虹、其色赤白。雌曰霓、其色青白。常雙見。

精光、精氣積而有光也。蟾蜍似蝦蟆居陸地。背黑壽三千歲、頭

有角、領下有丹書八字。后羿請長生之藥於西王母。其妻嫦娥盜而

食之、遂奔月宮、化爲蟾蜍。

(戰國策)云月魄象蟾兔。故世俗謂月魄爲蟾光。

六 風欲起而石燕飛、天將雨而商羊舞。

訓読

風起きんと欲して石燕飛び、天將に雨ふらんとして商羊舞ふ。

鄒注

(地輿志) 零陵山多石燕、遇風雨、起而羣飛、雨止仍復爲石。

(家語) 齊有一足鳥、遣使問孔子。孔子曰此商羊也。昔有童子、

屈其一足、展臂而跳。歌曰天將大雨、商羊鼓舞。今齊有之、將

大雨矣。

考

①初學記、天部下：湘州記曰零陵山有石燕。遇風雨即飛。止還爲石。

②孔子家語、卷三、辯政：齊有一足之鳥、飛集於宮朝、下止于殿前、舒翅而跳。齊侯大怪之、使使聘魯問孔子。孔子曰此鳥名曰商羊、水祥也。昔童兒有屈其一脚、振訊兩眉而跳。且謠曰天將大雨、商羊鼓舞、今齊有之、其應至矣。

諸家注

(盧) 有風起零陵、石飛起如燕。

(三) (湘中記) 有風起、零陵山石飛起如燕。

(家語) 齊有一足鳥、飛舞殿前、問于孔子。孔子曰此名商羊、

昔者有兒童屈一足。歌曰天將大雨而商羊鼓舞。

(錢) (湘州記) 零陵山有石燕、遇風雨、即飛止還爲石。

(家語) 齊有一足鳥、飛舞殿前、問於孔子。孔子曰此名商羊。昔有兒童、屈其一足而歌曰天將大雨、商羊起舞。今齊有之、其應至矣。

(周) (廣輿記) 湖廣祁陽縣、有石燕山。山石色純而狀似燕。若雷風交

變、風雨起而羣飛。風雨止、仍復爲石。

(家語) 齊有一足鳥飛于殿前。王遣人問孔子。孔子曰此商羊也。

昔兒童有屈其一足展臂而跳。歌曰天將大雨、商羊鼓舞。今齊有之。將大雨矣。果然。

七 旋風名爲羊角、閃電號曰雷鞭。

訓読 旋風名づけて羊角と爲し、閃電號して雷鞭と曰ふ。

鄒注 旋風、屈曲上行之風。

(莊子) 有鳥名鵬、翅若垂天之雲、搏扶搖羊角而上者九萬里。

(淮南子) 雷以電爲鞭、電光照處、謂之列缺。陰氣凝聚、陽在內不得出、則奮擊而爲雷霆。雷乃陰氣激躍、與雷同氣、發而爲光。

考 ①莊子、逍遙遊：其名爲鵬……翼若垂天之雲、搏扶搖羊角而上者九萬里。

②淮南子卷三、天文訓：陰陽相薄、感而爲雷、激而爲霆。

(盧) なし。

(三) 電、雷光也。雷將震則掣光如蛇。故號雷鞭。

(錢) (莊子) 旋風如羊角、言屈曲也。

電、雷光也。

(唐詩) 雷車電作鞭。

(周) 旋風、屈曲上行之風。

(莊子) 鵬翼尚飛搏扶搖、羊角而上者九萬里。陰氣凝聚、陽在內

不得出、則奮擊而爲雷霆。雷乃陰陽激耀、與雷同氣、發而爲光。
(淮南子)雷以電爲鞭。謂電光燦爛閃灼如鞭也。

八 青女乃霜之神、素娥卽月之號。

訓詁 青女は乃ち霜の神、素娥は卽ち月の號。

鄭注 (淮南子) 秋三月、青女乃出。以降霜雪。^①

霜者喪也。陰氣所凝、其氣慘毒、物皆喪也。^② 素娥卽常娥。

考 ①淮南子卷三、天文訓：至秋三月、地氣不藏、乃收其殺。百蟲蟄伏、靜居閉戶。青女乃出、以降霜雪。

②釋名、釋天：霜、喪也。其氣慘毒、物皆喪。

諸家注

〔盧〕なし。

〔三〕(淮南子)乃天神青天王女、司霜雪者。

〔錢〕(淮南子)秋三月、青女乃出、降以霜雪。

唐明皇遊月宮、見素娥十餘人皓衣乘鸞舞於桂樹下。

〔周〕霜乃寒氣所凝。其氣慘毒。

(五車妙選)云青天玉女、乃計霜者。

(淮南子)曰秋三月、青女出以降霜。

素娥卽嫦娥。

九 雷部至捷之鬼曰律令、雷部推車之女曰阿香。

訓詁 雷部至捷の鬼を律令と曰ひ、雷部車を推すの女を阿香と曰ふ。

鄭注

(搜神記)律令、周穆王時人、善走、死爲雷部小鬼。^① 儀輿周姓者、出郭、日暮、至道旁草舍中、一女子出見、周求宿、

時及二更、聞門外有小兒呼曰「阿香、官喚汝推車」、女去、忽作

雷雨、明朝視宿處、乃一新塚。^①

考

①初學記卷一、天部上、雷：續搜神記曰義興人姓周、永和中出都。日暮、道邊有一新草小屋、一女子出門望見周。周曰日暮求寄宿。

向一更中、聞外有小兒喚阿香、官喚汝推車。女乃辭去。明朝

宿處、乃是一新塚。

諸家注

〔盧〕なし。

〔三〕律令是雷邊捷鬼。善走而與雷相疾速。故符咒云急急如律令。

(搜神記)云義興人、姓周、永和中出都。日暮、宿于新草舍、有

一女子出門望見周。曰日已暮。周求寄宿。向一更中、聞外有小

兒喚阿香、喚汝推車。女子辭去、忽驟雷雨、天明視之乃一古塚

爲。

〔錢〕(資暇錄)律令是雷邊捷鬼、善走與雷相疾速。故符咒云急急如律

令。

(搜神記)永和中有人、暮宿道旁女子家。夜中聞小兒呼阿香、官

喚汝推雷車。忽驟雷雨、明日視宿處、乃一新塚。

〔周〕

(搜神記)律令、周穆王時人。善走。死爲雷部小鬼。今道家咒符者、故云急急如律令。儀輿、姓周者、出郭日暮。道旁有一草屋。

一女子出見周曰日已暮矣。周求借宿。至二更聞有小兒呼曰阿香、

官喚汝推雷車。女乃辭去。明朝視宿處、乃一新塚。

二〇 雲師係是豐隆、雪神乃是滕六。

〔訓読〕 雲師は是れ豐隆に係り、雪神は乃ち是れ滕六。

〔鄒注〕 雲、山川氣也。^①地氣上爲雲、天氣下爲雨。

〔淮南子〕 季春豐隆乃出、以將其雨。^②

〔幽怪錄〕 唐蕭志忠爲衡州刺史、欲出獵、有樵者見羣獸哀請于九

冥使者、使者曰若令滕六降雪、巽二起風、蕭使君不復出矣。天

未明、風雪大作、蕭果不出。^③

〔考〕 ①說文解字、十一篇下、雲部：雲、山川氣也。

②淮南子卷三、天文訓：季春三月、豐隆乃出、以將其雨。

③唐・牛僧孺幽怪錄：晉州刺史蕭至忠將以臘日出、臘前一日、

有樵者見禽獸百許祈于玄冥使者、使者令老嫗祈于東谷巖四、巖

四曰若令滕六降雪、巽二起風、不復遊獵矣。天未明、忽風雪大

作、刺史不復出也耶。

〔諸家注〕

〔盧〕 なし。

〔三〕 (穆天子傳云)天子升崑崙、封豐隆之葬。

(郭僕曰)豐隆筮師。御雲得大壯卦、遂爲雷師。

(幽怪錄)晉州蕭刺史至忠將以臘日畋游、有樵者於霍山、見一老

嫗哀請黃冠者。黃冠曰若令滕六降雪、巽二起風、即蕭君不復獵

矣。薪者回未明、風雪竟日、蕭刺史竟不出。

〔錢〕 この文「風師係屏翳、雪神號爲滕六」に作る。

(洛神賦)屏翳收風。(注)風、師也。

(幽怪錄)蕭至忠爲晉州刺史、欲出獵、有樵者於霍山見一長人。

謂諸獸曰余九冥使者。奉北帝命蕭君畋。汝輩若于合鷹死、若干

合箭死、有老鹿屈膝求救、一黃冠謂曰若使滕六降雪、巽二起風、

則使君不出矣。翌月大風雪、蕭果不出。

〔周〕 雲、山川氣也。地氣上升爲雲、天氣下降爲雨。豐隆、一曰雷師

也。

(幽怪錄)唐景雲元年、蕭至忠爲衡州刺史、欲出畋獵。有樵人于

霍山。自稱立冥使者。見羣獸哀請於目前、使者曰若令滕六降雪、

巽二起風、蕭使君當罷出矣。日未明。風雪大作。忠果不出獵矣。

二 熒忽火謝仙、俱掌雷火、飛廉箕伯、悉是風神。

〔訓読〕 熒火、謝仙は俱に雷火を掌り、飛廉箕伯は悉く是れ風神。

〔鄒注〕 熒、謂有所吹起也。^①雷火之作、因風而起、故雷部之鬼曰熒火。

(国史)祥符中岳州玉仙觀爲天火所焚。惟存一柱、上有謝仙火三

字。謝仙、雷部之鬼。飛廉、神禽、能致風。鹿身、頭如雀、有

角、蛇尾、豹文。^②

(文苑)風伯名方道彰。一曰即箕星。^①

〔考〕 ①說文解字八篇下、欠部：欸有所吹起。

②國史、未詳。

歐陽脩・集古錄跋尾卷十：右謝仙火字、在今岳州華容縣廢玉真

宮上。倒書而刻之、不知何人書也。傳云大中祥符中、玉真宮爲

天火所焚、惟留一柱有此字。好事者遂模于石。……有以此字問

之者、輒曰謝僊者、靄部中鬼也。

漢書、武帝紀：(元封)二年冬十月……、作甘泉通天臺、長安飛

廉館。顏師古注、應劭曰飛廉、神禽能致風氣者也。晉灼曰身似

鹿、頭如爵、有角而蛇尾、文如豹文。

③文苑、未詳。

參考：蔡邕、獨斷：風伯神、箕星也。

淮南子卷一、原道訓：使風伯掃塵。高誘注、風伯、箕星。

諸家注

(盧)なし。

(三) 大中祥符岳州玉仙觀爲天火所焚。惟留一柱、有謝仙火三字、倒

書而刻之。慶曆中有以此字問仙姑者。輒曰謝仙者雷部中之一鬼

也。皆三尺其色如玉。

(風俗通)飛廉風伯、箕星也。

(呂氏春秋)應邵註、飛廉、神禽能致風氣。鹿身、頭如雀、有角、

蛇尾豹文。

(錢) この文、「豐隆謝仙俱掌雷火、飛廉少女悉是風神」に作る。

豐隆雷師亦作霹靂。

(國史) 祥符中岳州玉仙觀爲天火所焚。惟留一柱、有謝仙火三字、

倒書而刻之。何仙姑云謝仙、雷部司掌火。

飛廉神禽、即箕星也。箕主簸揚、能致風氣。

管公明日梅上已有少女、微風雨立至矣。

(周) (國史) 祥符中、吳州玉仙觀爲天火所焚。惟留一柱。有謝仙火三

字、倒書而刻之。仙姑曰謝仙者雷部中之一鬼也。

(文苑) 飛廉、鹿身蛇尾豹文。風伯、名方道彰。一曰風伯。即箕星也。

三 列缺乃雷之神、望舒是月之御。

訓読 列缺は乃ち雷の神、望舒は是れ月の御。

鄭注 列缺、注詳上雷鞭。^①

(淮南子) 月御曰望舒。^②

考 ①文・七参照。

②初学記、天部下、月：淮南子云月一名夜光、月御曰望舒。

諸家注

(盧)なし。

(三) (文選) 應劭曰列缺、天隙電光也。

(淮南子) 天文訓、月御曰望舒、亦曰織阿。

(錢) (思玄賦) 列缺擘其照夜。(注) 電光所照處。

(淮南子) 月御曰望舒、亦曰織阿。

(周) この文「日御曰羲和、月御曰織阿」に作る。

(山海經) 東南海外有羲和國。有女名曰羲和。即死乃爲日御。

上古有善御者。名曰織阿。死爲月御而碾其永輪云。

三 甘霖甘澍音澍、俱指時雨、玄穹音穹彼蒼、悉稱上天。

訓読 甘霖甘澍は俱に時雨を指し、玄穹彼蒼は悉く上天と稱す。

鄭注 (爾雅) 小雨曰霽霖、疾雨曰驟、徐雨曰零、久雨曰苦曰霖、三日

以上曰霖、久旱而雨曰甘霖。^①久雨不止曰愁霖。時雨滋生萬物曰

甘澍。與雪糝下曰霰。

〔晉・郭璞〕云天形穹窿、其色蒼蒼。^②

〔釋〕玄、黑也。蒼、青也。穹、高也。

〔詩〕彼蒼者天。^③

考

①爾雅、釋天：曇雨謂之凍、小雨謂之霰、久雨謂之淫、淫謂之霖、濟謂之霽。

②爾雅、釋天：穹蒼蒼天也。郭璞注：天形穹隆、其色蒼蒼。

③詩經、泰風、黃鳥：彼蒼者天、殲我良天。

諸家注

〔盧〕〔詩〕云彼蒼者天。

〔三〕〔爾雅〕時雨曰澍雨、三日以往曰霖。

〔虞昂穹天論〕云天形穹隆、如笠而昌地之表、浮元氣之上。

〔詩經〕東方曰蒼天、北方曰玄天。

〔錢〕〔甘澍〕作「豐澤」

雨三日以往爲霖。

〔文選〕昊天降豐澤。

穹言天勢穹窿也。蒼、深青色也。東方曰蒼天、北方曰玄天。

〔周〕〔爾雅〕小雨曰霰、疾雨曰驟、往雨曰零、久雨曰苦、久旱而雨

曰甘霖、久雨不止曰愁霖、時雨澍生萬物曰甘澍。

時者及時也。玄、遠也。穹、高也。天形穹隆、其色蒼蒼。

〔詩〕彼蒼者天。

四 雪花飛六出、先兆豐年、日上已三竿、乃云時晏。

訓詁

雪花六出を飛して、先ず豐年を兆し、日上るに已に三竿とは、乃ち時の晏を云ふ。

鄒注

冬月雪花六出、春月雪花五出。諺云江南三尺雪、人道十年豐。

天地積陰、温則爲雨、寒則爲雪、皆由地發、非從天降。雪爲五

穀之精、凡花多五出、惟雪花六出。^①蓋五者陽數、六者陰數。

〔天文志〕日出三竿、黃色赤暈。^②〔釋〕謂日出三竿之高、初出色

黃、到午色赤、將入色暈。

考

①太平御覽、天部、雪：韓詩外傳曰凡草木花多五出、雪花獨六出、雪花曰霰。

②南齊書、天文志：永明五年十一月丁亥、日高三竿、朱色赤黃、

曰暈、虹抱珥直背。

諸家注

〔盧〕〔豐年〕作「年豐」。

〔三〕〔豐年〕作「年豐」。

〔韓詩外傳〕凡花多五出、惟雪花六出。其數屬陰也。

〔一統志〕云白雪山冬積雪漫項則歲豐稔。

〔天文志〕日出三竿之高。

〔錢〕〔豐年〕作「年豐」。

凡草木花多五出、惟雪花六出。其數屬陰。三竿言高也。

〔周〕〔豐年〕作「年豐」。

〔詩〕云河南三尺雪。人道來年豐。

天地積陰、温則爲雨、寒則爲雪。凡花多五出。蓋五者陽數、六者陰數。

〔宋儒云〕大雪爲豐年之兆。蓋爲雪凝結、得陽氣在地、來年發達、生長萬物。所以爲豐年之兆。

竿、竹挺也。已三竿、言日有三竿之高。

〔天文志〕日出三竿、黄色赤暈。

一五 蜀犬吠日、比人所見甚稀、吳牛喘月、笑人畏懼過甚。

〔訓読〕蜀犬日に吠ふとは、人の見る所甚だ稀なるに比し、吳牛月に喘

ぐとは、人の畏懼すること過甚なるを笑ふ。

〔鄒注〕蜀地山高少日、日出則羣犬吠之。^①

〔世説〕蒲葦素畏風、侍魏武帝坐北窗下、作玻璃屏、實密似疎、

奮有寒色、帝笑之。奮曰「臣猶吳牛、見月而喘」。吳牛、水牛也。

生江淮間、南地多暑、此牛畏熱。見月疑是日、所以喘也。^②喘、

氣急。

〔考〕^①韓愈文章に未見。淵鑑類函引韓文：蜀中山高少日、每日出則犬

吠之。

※一般には、柳宗元「答韋中立論師道書」中の「僕往聞庸蜀之

南、恒雨少日、日出則犬吠、余以爲過言」を典故とする。

②世説新語、言語篇：滿葦畏風、在晉武帝坐、北窗作琉璃屏、實

密似疎。奮有難色、帝笑之、奮答曰臣猶吳牛見月而喘。

同、劉孝標注：今之水牛、唯生江淮間、故謂之吳牛也。南土多

暑、而此牛畏熱、見月疑是日、所以見則喘。

諸家注

〔盧〕吳牛畏熱、見月誤爲日而喘。蜀山高見日時少。犬見日故吠。

〔三〕〔韓文〕蜀中山高霧重、見日時少。每至日出則羣犬疑而吠之也。

喘、氣急也。

〔風俗通〕水牛生江淮間。故曰吳牛。南地多暑、此牛畏熱、見

月疑是日、所以喘也。

〔錢〕「比人所見甚稀」作「比人識見甚疎。」

蜀、今四川省也。

〔柳文〕庸蜀之南、恒雨少日、日出則羣犬吠之。

喘、氣急也。

〔風俗通〕吳牛苦於日、故見月而喘。

〔周〕稀、少也。

〔韓文〕蜀山高少日、日出則羣犬吠之。

牛喘、氣急也。吳牛、今之水牛。多生江淮間。故云吳牛。南土

多暑而北牛畏熱、見月疑是日、故喘。

一六 望切者、若雲霓^{音儀}之望、恩深者、如雨露之恩。

〔訓読〕望み切なる者は、雲霓の望の若く、恩深き者は、雨露の恩の如

し。

〔鄒注〕〔孟子〕民望之、若大旱之望雲霓也。^①

雲興雨至、雲見而雨止。言望雨者、喜雲興而恐霓見。以此望人

者、望其至而又恐其止也。夜氣爲露、陰之凝也。言受恩如萬物

受雨露。

考 ①孟子、梁惠王下：民望之、若大旱之望雲霓也。

諸家注

〔盧〕なし。

〔三〕（孟子・梁惠王下篇）如大旱之望雲霓也。言雲興而雨至、覓見而雨止也。望雨者喜雲興而恐覓見。以比望人者、望其至而又恐其止也。

〔錢〕「之望」「之恩」四字なし。

雲合而雨、覓見而止。以比望人之切也。言恩澤如雨露之深也。

〔周〕雲合則雨、覓見則止。

（孟子）若大旱之望雲霓。

夜氣爲露、陰之液也。言受恩如萬物之受雨露也。

二七 參商二星、其出沒不相見、牛女兩宿、惟七夕一相逢。

訓読

參商二星は、其れ出沒して相見ず。牛女兩宿は、惟だ七夕に一たび相逢ふのみ。

鄙注

高辛氏有二子、長闕伯、次實沈。二人爭鬪不已。帝遷闕伯于東方商邱、主商。遷實沈于西方大夏、主參。彼出則此沒。

〔續齊諧記〕天河之東有織女、天帝之孫也。勤習女工、容貌不暇整理。帝憐其獨處、許嫁河西牽牛郎。嫁後竟廢女工。帝怒、今仍歸河東。惟七夕一相會。^②

考

①春秋左氏傳、昭公元年：子產曰昔、高辛氏有二子。伯曰闕伯、季曰實沈。居于曠林、不相能也。日尋于戈、以相征討。后帝不

臧、遷闕伯于商丘、主辰。商人是因。故辰爲商人是因。故辰爲

臧、遷闕伯于商丘、主辰。商人是因。故辰爲商人是因。故辰爲

臧、遷闕伯于商丘、主辰。商人是因。故辰爲商人是因。故辰爲

臧、遷闕伯于商丘、主辰。商人是因。故辰爲商人是因。故辰爲

臧、遷闕伯于商丘、主辰。商人是因。故辰爲商人是因。故辰爲

臧、遷闕伯于商丘、主辰。商人是因。故辰爲商人是因。故辰爲

諸家注

〔盧〕參商彼出則此沒。

〔三〕商星居東方卯位、參星居西方酉位。各居東西。此出彼沒、永不

相見。

牛、牽牛星、女、織女星。一居天河東、一住天河西。織女勤織、

不暇整容。上帝憐之、乃嫁與牽牛爲夫婦。嫁後即廢女工。帝怒

謫歸河東。惟令每年七月初七夜渡河一會。

〔錢〕商星居東方卯位、參星居西方酉位。此出彼沒、永不相見。故朋

友不合曰參商。

牽牛一名河鼓、織女一名天孫。一居河東、一居河西。織女機杼

勞役、不暇整容。天帝憐其孤獨、許嫁牽牛爲夫婦。嫁後廢織。

帝怒謫歸河東。惟令每年七月初七日夜渡河一會。

〔周〕高辛氏有二子。長闕伯、次實沈。二人爭鬪不已。帝遷闕伯於

東方商邱、主商。實沈遷於西方大夏、主參、彼出則此沒。

天河之東有織女。天帝之女也。勤習女工、年年勞于機杼。帝憐

其獨處、許嫁河西牽牛郎。嫁後竟廢女工。帝怒令歸河東。每年

只七夕一會。

一六 后羿妻、奔月宮而爲嫦娥、傳說死、其精神託于箕尾。

訓詁

后羿の妻、月宮に奔り嫦娥と爲り、傳說死して、其の精神箕尾に託す。

鄒注

后羿、嫦娥注詳上。① 傳說、高宗相。

〔莊子〕 傳說乘東維、騎箕尾、而比于列星。蓋言傳說死後、精神

跨于箕尾二星之間也。②

考

① 文・八参照。

② 莊子・大宗師：傳說得之、以相武丁、奄有天下、乘東維、騎箕

尾、而比於列星。

諸家注

〔盧〕 なし。

〔三〕 〔莊子・大宋師篇〕 傳說相武丁、奄有天下、乘東維、騎箕尾、而

比於列星也。箕尾二星。

〔錢〕 姮娥即嫦娥也。解見前。

說殷武丁相、箕尾二星名。

〔周〕 后羿妻名爲嫦娥。註見上文。傳說高宗相。箕尾、二宿名。

〔莊子〕 傳說乘東維、騎箕尾、而比于列星。

一七 披星戴月、謂早夜之奔馳、沐雨櫛風、謂風塵之勞苦。

訓詁

星を披月を載くは、早夜の奔馳を謂ひ、沐雨櫛風は、風塵の勞苦を謂ふ。

鄒注

〔呂氏春秋〕 宓子賤名不齊。爲單父宰、彈琴而理、不下堂而單父治。巫子期亦爲單父宰、披星出、戴月入、日夜不居、以身親之、而單父亦治。期問于賤曰子鳴琴而單父治、不見其勞、何也。賤曰我任人、子任力、任人者逸、任力者勞。① 期曰是施之未至也。

〔唐書〕 狄仁傑對武后曰文皇帝櫛風沐雨、冒鋒鏑以定天下、傳之子孫、先帝以二子託陛下、今乃移之他族、無乃非天意乎。②

〔釋〕 沐雨、雨濯其頭也。櫛風、風梳其髮也。風塵、道塗也。

考

① 呂氏春秋卷二十一、開春論、察賢：宓子賤治單父、彈鳴琴、身不下堂而單父治。巫馬期以星出、以星入、日夜不居、以身親之而單父亦治。巫馬期問其故於宓子。宓子曰我之謂任人、子之謂任力、任力者故勞、任人者故逸。

② 新唐書、狄仁傑傳：二人同辭對曰「……文皇帝身蹈鋒鏑、勤勞而有天下、傳之子孫、先帝寢疾……」

諸家注

〔盧〕 勞人在外、風梳其髮、雨沐其頭。

〔三〕 〔呂氏春秋云〕 宓子賤爲單父宰、彈琴不下堂而單父治。巫馬期爲單父宰、戴星出、戴月入而單父亦治。言披戴星月而出入早夜、無安寧之意。

言勞人在外、不避風雨、如風櫛其髮、雨沐其頭是也。

〔錢〕 この文「戴月披星、謂奔馳於早夜、櫛風沐雨、謂勞苦於風塵」に作る。

言早出夜入、不安寧也。

言勞人在外、不避風雨、如風櫛其髮、雨沐其頭也。

〔周〕巫馬期爲單父宰、披星而出、戴月而入而單父治。

沐雨其頭。櫛風、風梳其髮、勞人在外如此。

〔唐書〕狄仁傑對武后曰文皇帝櫛風沐雨、以定天下、傳之子孫。

文帝以二子託陛下。今乃移之他族、無乃非天意乎。

三 事非有意、譬如雲出無心、恩可遍施、乃曰陽春有脚。

〔訓誦〕 事意有るに非ざるは、譬へば雲出でて心無きが如く、恩遍く施すべきは、乃ち陽春脚有りと曰ふ。

〔鄒注〕 〔歸去來辭〕 雲無心以出岫。^①

唐宋璟能愛惜民物、人號爲有脚陽春。〔釋〕 言恩愛之所及、如春及物也。

〔考〕 ①文選卷四十五、歸去來辭：雲無心以出岫、鳥倦飛而知還。

②開元天寶遺事、卷下：宋璟愛民恤物、朝野歸美、時人咸謂璟爲有脚陽春。言所至之處、如陽春煦物也。

〔諸家注〕

〔盧〕 唐宋璟能愛民、人號爲有脚陽春。

〔三〕 雲出山岫、本非有心。人之爲事、出於無心、亦如是。

唐宋璟能愛人、民號爲有脚陽春。

〔錢〕 〔陶詞〕 雲無心以出岫。

唐宋璟仁愛、號有脚陽春。

〔周〕 〔歸去來詞〕 雲無心以出岫、鳥倦飛而知還。春時陽盛、萬物焉而生。

唐宋璟愛惜民物、朝野歸美。人咸謂有脚陽春。

三 饋物致敬、曰敢效獻曝之忱、託人轉移、曰全賴回天之力。

〔訓誦〕 物を饋り敬を致すを敢へて曝を獻するの忱を效すと曰ひ、人に託し轉移するを全く天を回らすの力に頼ると曰ふ。

〔鄒注〕 〔列子〕 宋有田父。冬曝于日、不知天下之有廣廈煖室、綿纈狐貉。謂妻曰負日之暄、人莫知者。當以獻吾君、必有重賞。里之富人謂曰昔人有美莖芹萍子者、對鄉豪稱之。鄉豪取賞、利于口、慘于腹、晒而怨、此子類也。^①

〔唐〕 太宗欲修洛陽宮、以備巡幸。張玄素諫曰未有巡幸之期而預脩宮室、非今急務、且役瘡痍之人、襲亡隋之弊、恐又甚于煬帝矣。上卽罷之。魏徵聞之嘆曰張公論事有回天之力。^②

〔考〕 ①列子、楊朱篇：昔者宋國有田夫。常衣緇屨、僅以過冬。暨春東作、自曝於日。不知天下之廣廈煖室、綿纈狐貉。顧謂其妻曰負日之暄、人莫知者。以獻吾君。將有重賞。里之富室告之曰昔人有美戎菽・甘泉莖・芹萍子者、對鄉豪稱之。鄉豪取而嘗之、蜇於口、慘於腹。衆晒而怨之。其人大慙。子此類也。

②新唐書、張玄素傳：貞觀四年、詔發卒治洛陽宮乾陽殿、且東幸。玄素上書曰……今東都未有幸期……陛下每言巡幸者不急之務、徒爲虛實。……今民力未及隋日、而役殘創之人、襲亡國弊、臣恐陛下之過、甚於煬帝。……卽詔罷役、賜絲二百匹。魏徵名便挺、聞玄素言、歎曰張公論事、有回天之力、可謂仁人之言哉。

諸家注

〔盧〕昔有人曝冬日煖者、欲獻至尊。

〔三〕〔列子〕楊朱篇曰昔宋國有田夫曝冬日煖者、欲獻之至尊。茲言以物送人者亦如是焉。

天者、君象。回天謂挽回君心。

唐太宗欲修洛陽宮。張玄素諫止之。魏徵嘆曰張公論事、遂有回天之力。

〔錢〕〔列子〕宋有田父。曝日而美之。謂其妻曰負日之暄、人莫知者。

以獻吾君。必有重賞。言以物餽人亦如是。

天者、君象。回天、言挽回君心也。唐太宗欲修洛陽宮。張玄素諫止之。魏徵曰張公有回天之力。

〔周〕宋有田父。冬曝於日。謂妻曰負日之暄、人莫知者。以獻吾君、

當有厚賞。里之富人謂曰昔人有美莖芹萍子者、對鄉豪稱之。鄉豪取嘗旨于口、慘于腹。晒而怨。此子類也。

天者、君象。唐太宗欲修洛陽宮。張玄素力諫乃止。魏徵嘆曰張公論事、有回天之力、誠可謂仁人之言也。

三 感救死之恩曰再造、頌再生之德曰二天。

〔訓詁〕死を救ふの恩に感ずるを再造と曰ひ、再生の徳を頌ふるを二天と曰ふ。

鄒注

〔唐〕郭子儀克復兩京、肅宗勞之曰朕之國家、由卿再造。^①

〔釋〕再造、再生也。

〔漢〕蘇章爲冀州刺史。有故人任清河太守、章行部按其奸贓、太守

設酒、陳平生之好。喜曰人皆有一天、我獨有二天。章曰今日飲酒、私恩也。明日按事、公法也。遂正其罪、州境肅然。^②

考

①新唐書、郭子儀傳：〔子儀〕入朝、帝遣具軍容迎灞上、勞之曰國家再造、卿力也。子儀頓首陳謝。

②後漢書、蘇章傳：順帝時、遷冀州刺史。故人爲清河太守、章行部案其姦贓。乃請太守、爲設酒肴、陳平生之好甚歡。太守喜曰人皆一天、我獨有二天。章曰今夕蘇孺文與故人飲者、私恩也。

明日冀州刺史案事者、公法也。遂舉正其罪。州境知章無私、望風畏肅。

諸家注

〔盧〕蘇章爲刺史。有故人犯罪。故人曰人皆一天、我有二天。望其免罪。

〔三〕後漢蘇章爲冀州刺史。有故人爲清河太守、章行部按其奸贓。太守爲設酒肴、陳平生之好甚歡。太守喜曰人皆有一天、我獨有二天。章曰今與故人飲者、私恩也。明日冀州按事者、公法也。遂正其罪。

〔錢〕「救死」作「救援」。「頌再生之德」作「頌覆庇之德」。

造、音早、建也。

〔郭子儀贊〕國家再造。

〔通鑑〕後漢蘇章爲冀州刺史、行部。有故人爲清河太守、贓奸。

章至設酒。敘權曰人皆有一天、我獨有二天。章曰今日與故人飲、私恩也。明日冀州按事、公法也。遂正其罪。

〔周〕唐郭子儀克復東京。肅宗勞之曰朕之國家由卿再造。再造、猶再生也。

漢蘇章、字儒文。爲刺史。有故人爲吏贓奸。乃請太守舉酒敘歡。太守曰人皆有一天、我獨有三天。章曰今夕與故人飲者、私恩也。明日刺史按事書、公法也。仍正其罪。

三 勢易盡者若冰山、事相懸者如天壤音壤。

〔訓讀〕勢、盡き易き者は、冰山の若く、事、相懸る者は、天壤の如し。

〔鄒注〕唐楊國忠爲相、恃寵恣橫、人爭附之。或勸進士張象謁之曰見之、富貴可圖。象曰君輩以楊右相爲泰山、吾以爲冰山耳。若皎日出、君輩得無失所恃乎。遂隱嵩山。

〔陸厥與沈書〕一人之思、遲速天懸、一家之文、上拙隔壤。^②〔釋〕壤、地也。事相懸絕者、如天地之遠也。

〔考〕①開元天寶遺事、卷上：楊國忠權傾天下、四方之士、爭詣其門、進士張象者陝州人也。力學有大名、志氣高大、未嘗低折於人。

人有勸象令脩謁國忠、可圖顯榮。象曰爾輩以謂楊公之勢、倚靠如太山、以吾所見乃冰山也。或皎日大明之際則此山當誤人爾。

後果如其言時人美張生見幾。……遂拂衣長往歸遯於嵩山。

②南史、陸厥傳（又は、南齊書、文學傳、陸厥傳）厥與約書……一人之恩、遲速天懸、一家之文、工拙隔壤。

諸家注

〔盧〕張象曰人倚楊國忠爲太山、吾以爲冰山。

〔三〕唐楊國忠恃寵恣橫、人爭附之。張象曰人倚國忠爲泰山、吾獨以

爲冰山。

壤、地也。如天壤相隔之遠也。

〔錢〕〔唐史〕楊國忠恃寵恣橫、人爭附之。張象曰人倚國忠如泰山、吾以爲冰山耳。

壤、地也。言事之懸絕如天地相隔之遠也。

〔周〕唐玄宗時、楊國忠爲相、恃寵專權。或勸進士張象曰見之富貴可圖。象曰君輩以楊右相爲泰山、吾以爲冰山耳。

壤、地也。言事之相懸絕如天地之隔絕也。

二 晨星謂賢人寥落、雷同謂言語相符。

〔訓讀〕晨星は賢人寥落なるを謂ひ、雷同は言語相符するを謂ふ。

〔鄒注〕晨星、早晨之星也。或存或沒。寥落、寂寥冷落也。

〔劉禹錫、送張璠赴舉序〕所謂同年友、當其盛時、連轡舉鑑、互逐九衢、今來落落、如晨星之相望。^①

〔曲禮〕母雷同。

〔釋〕符、合也。人言而附合之、曰雷同、如雷之發聲、物無不同時應者。^③

〔考〕①劉夢得文集卷六、送張璠赴舉并引：所謂同年友、當其盛時、聯袂

齊鑣、互絕九衢、若屏風然、今來落落、如曙星之相望。

②禮記、曲禮上：母勦說、母雷同、必則古昔、稱先王。

③同右、鄭玄注：雷之發聲。物無不同時應者。

諸家注

〔盧〕早晨之星甚稀。

(劉禹錫)今來落落如晨星之相望。

(三) 晨星之星甚稀。

(唐・劉禹錫)今來落落如晨相望。

雷鳴震百里。今言語相符合者如聞雷震之相同也。

(錢) (劉禹錫)落落如晨星之相望。

謂故人寥談如早晨之星甚稀少也。

(論語)雷震百里聲相附也。

謂言語之符合如聞雷聲之相同也。

(周) 晨星、早晨之星。或存或沒。

(劉禹錫、送張鹽赴舉序)所謂同年友、當其盛時、連轡舉鑣、互

絕九衢、今來落落、如晨星之相望。

寥落猶寂蕩也。

符、合也。人言而附和之曰雷同。如雷之發聲物無不同時應者。

(曲禮)正爾容、聽必恭。毋勦說、毋雷同。必則古昔、稱先王。

○道吾山房本「謂賢人寥落」作「謂老成離謝」。

三 心多過慮、何異杞人憂天。事不量力、不殊夸父追日。

訓誦 心に過慮多きは、何ぞ杞人の天を憂ふるに異ならん。事に力を

量らざるは、夸父の日を追ふに殊ならず。

鄒注 (列子)杞人有憂天墜者、身無所寄、廢於寢食。有曉之者曰天積

氣耳、奈何而崩墜乎。其人曰天果積氣、日月星辰不當墜也。曉

者曰日月星辰亦積氣之有光耀者、雖墜亦不中傷。其人始釋。

○夸父欲追日影、遂之於陽谷之際、渴欲飲、乃赴河飲、不足、

將走北飲大澤中、未至、渴死。棄其杖、膏肉所浸、生鄧林竹、
廣數千里。

考 ①列子、天瑞篇：杞國有人憂天地崩墜、身亡所寄、廢寢食者。又

有憂彼之所憂者、因往曉之、曰天積氣耳、亡處亡氣、若屈伸呼

吸、終日在天中行止、奈何憂崩墜乎。其人曰天果積氣、日月星

宿、不當墜耶。曉之者曰日月星宿、亦積氣中之有光輝者、只使

墜、亦不能有所中傷。其人曰奈地壞何。曉之者、地積塊耳、充

塞四虛、亡處亡塊、若躡步蹠踏、終日在地上行止、奈何憂其壞。

其人舍然大喜。曉之者亦舍然大喜。

②列子、湯問篇：夸父不量力、欲追日影、逐之於隅谷之際、渴欲

得飲、赴飲河渭、河渭不足、將走北飲大澤、未至、道渴而死。

棄其杖、尸膏肉所浸、生鄧林、鄧林彌廣數千里焉。

諸家注

(盧) 杞人憂天崩墜、身無所寄、遂廢寢食。夸父追日影、不及、道渴

而死。

(三) (列子曰)杞國有人常憂天墜、身無所寄、遂廢寢食。

夸父追日影、不及、道渴而死。

(錢) (列子)杞國有人常憂天墜、身無所寄、至廢寢食。

(列子)夸父不量力、欲逐日影、逐之隅谷之際、道渴而死。

(周) (列子)杞人有憂天墜者、身無所寄、廢于寢食。有曉之者曰天積

氣耳、奈何而崩墜乎。其人曰天果積氣、日月星辰不當墜也。曉

者曰日月星辰亦積氣之有光耀者、墜亦不中傷、其人始釋。

夸父欲追日影、逐之於陽谷之際、渴欲飲、赴河飲、不足、將走

北飲大澤中、未至、渴死。棄其杖、膏肉所浸、生鄧林竹、廣數十里。

三 如夏日之可謂、是謂趙盾。如冬日之可愛、是謂趙衰。

訓詁 夏日の畏るべきが如き、是を趙盾と謂ひ、冬日の愛すべきが如き、是を趙衰と謂ふ。

鄒注 (左) 晉大夫趙盾、衰之子也、爲晉正卿。狄相鄆舒問狐射姑曰趙盾趙衰孰賢。對曰趙衰如冬日之可愛、趙盾如夏日之可畏。^①

考 ①左傳、文公七年：狄侵我西鄙、公使告于晉、趙宣子使因賈季問鄆舒、且讓之。鄆舒問於賈季曰趙衰趙盾孰賢。對曰趙衰冬日之日也、趙盾夏日之日也。杜注：冬日可愛、夏日可畏。(尚、狐射姑は賈季のこと)

諸家注

(盧) なし。

(三) (左傳) 文公七年、晉賈季奔狄、狄相鄆舒問於賈季曰趙衰・趙盾孰賢。對曰趙衰冬日也、趙盾夏日也。

(錢) この文「趙盾如夏日之可畏、趙衰如冬日之可愛」に作る。

盾・衰俱晉卿、夏日烈、冬日溫、盾爲人嚴而可畏、故如夏日、衰爲人和而可愛、故如冬日。

(周) (左) 晉大夫趙盾・趙衰之子也、爲晉正卿。狄相鄆舒者問於晉狐射姑曰趙衰趙盾孰賢。對曰趙衰如冬日之日可愛、趙盾如夏日之日可畏。

○道吾山房本「是謂趙盾」作「比趙盾之嚴厲」。「是謂趙衰」作

「比趙衰之溫和」

七 齊婦含冤、三年不雨。鄆衍下獄、六月飛霜。

訓詁 齊婦冤を含みて、三年雨ふらず。鄆衍獄に下りて、六月霜を飛ばす。

鄒注 (漢) 東海孝婦竇氏、養姑甚謹、夫死不嫁、姑曰我老累汝、乃自縊死。姑女告婦殺母、婦誣服罪。獄吏于公爭之不得、郡守竟殺之。郡旱三年。後郡守至、于公白其冤曰咎在是矣。郡守致祭其墓、乃雨。^①

(周) 鄆衍聞燕昭王下士、自梁至燕。燕昭王擁篲前驅、築碣石宮、師事之。昭王崩、惠王信讒、下衍於獄、冤不能白、仰天而哭、時方六月、天忽飛霜。^②

考

①漢書、于定國傳：其父于公爲縣獄吏……東海有孝婦、少寡、亡子、養姑甚謹、姑欲嫁之、終不肯。姑謂鄰人曰、孝婦事我勤苦、哀其亡子守寡、我老、久壘丁莊、奈何。其後姑自經死。姑女告吏、婦殺我母。吏捕孝婦、孝婦辭不殺姑。吏驗治、孝婦自誣服。具獄上府、于公以爲此婦養姑十餘年以孝聞、必不殺也。大守不聽、于公爭之、弗能得、乃抱其具獄、哭於府上、因辭疾去。太守竟論殺婦。郡中枯旱三年。後太守至、卜筮其故、于公曰孝婦不當死、前太守疆斷之、咎黨在是手。於是太守殺牛自祭孝婦家、因表其墓、天立大雨、歲孰。郡中以此大敬重于公。

②史記、孟子荀卿列傳：(騶子)如燕、昭王擁篲先驅、列弟子之座受業、築碣石宮、身親往師之。

初學記、天部下 霜、事對、燕繫鄒衍：淮南子曰鄒衍事燕惠王盡忠、左右譖之、王繫之、仰天而哭、夏五月、天下爲之下霜。全唐文卷二二六、張說獄箴：匹夫結憤、六月飛霜。

諸家注

〔盧〕なし。

〔三〕（淮南子）齊之寡婦、無子不嫁、事姑謹敬、姑無男有女、利母財、令母嫁婦、婦終不肯、女殺母以誣婦、不能自明、冤結告天、天爲作雷電。

〔史記列傳〕鄒衍事燕惠王、左右譖之、彼繫於獄、仰天而哭、盛夏天爲之降霜。

〔錢〕（漢書）齊婦守節事姑、姑恐妨其嫁而縊、姑女訟婦、坐斬、東海大旱、獄吏于公曰必祭冤婦、乃雨果驗。

〔白帖〕鄒衍事燕惠王盡忠、左右譖之、王繫之獄、衍仰天而哭、六月爲之降霜。

〔周〕漢宣帝時、東海有孝婦竇氏、少寡、養姑至孝、夫死不嫁。姑嘗曰婦事我勤苦、是我累汝、乃自縊死。姑女告婦殺其母。太守按治婦誣服罪、于公力爭之、不聽、卒至死。地都旱三年、另太守至。于公白其冤曰咎在是矣。太守遂祭孝婦、即雨。

周鄒衍事燕昭王盡忠、左右譖之于王、王捕繫于獄、衍仰天而哭、夏六月天降大霜。

三 父仇不共戴天。子道須當愛日。

訓詁

父の仇は共に天を戴かず、子の道は須く當に日を愛むべし。

鄒注

〔曲禮〕父之仇不與共戴天、兄弟之仇不反兵、交游之仇不同國。

〔楊子〕事父母自知不足者、其舜乎。不可得交而久者、事親之謂也、故曰孝子愛日。〔釋〕愛日、義如惜陰。

考

①禮記、曲禮上：父之讎、弗與共戴天、兄弟之讎、不反兵、交游之讎、不同國。鄭注：父者子之天、殺己之天、與共戴天、非孝子也、行求殺之乃止。

②楊子法言、孝至篇：父母、子之天地與。無天何生、無地何形、天地裕於萬物乎。萬物裕於天地乎。裕父母之裕、不裕也。事父母自知不足者、其舜乎。不可得而久者、事親之謂也、孝子愛日。

諸家注

〔盧〕父之仇人不與俱正、必殺之而後已。

〔三〕（曲禮云）君父之仇不共戴天。

（楊子法言云）敬時愛日、當盡孝。

〔錢〕（禮記）君父之讎、不共戴天。

言子愛父母、當如愛日之誠也。

〔周〕（曲禮）父之仇、弗與共戴天、兄弟之仇不反兵、交游之仇、不與同國。

愛日義同惜寸陰、蓋父母之年日去、不可留、人子當及事盡孝也。

（楊子）事父母自知不足者、其舜乎。不可得而久者、事親之謂也、孝子愛日。

元 盛世黎民、嬉遊于光天化日之下、太平天子、上召夫景星慶雲之祥。

訓詁

盛世の黎民は、光天・化日の下に嬉遊し、太平の天子は、上に夫の景星・慶雲の祥を召す。

鄒注

黎民、黑髮之民。^①

〔書〕 兪或、帝光天之下、至于海隅蒼生。^②

〔潛夫論〕 化國之日舒以常、亂國之日促以短。^③

舜時景星見、慶雲生。景星、一曰德星、形如半月、助月爲明。

王者政教無私、則景星見。慶雲、其雲五色。王者德合山陵、則慶雲生。^④

考

①尚書、堯典：曰若稽古帝堯、曰放勳、欽明文思安安、允恭克讓、光被四表、格于上下、克明俊德、以親九族、九族既睦、平章百姓、百姓昭明、協和萬邦、黎民於變時雍。孔傳：黎、衆、言天下衆民皆變化化上、是以風俗大和。

②尚書、益稷：禹曰兪哉、帝光天之下、至于海隅蒼生、萬邦黎獻、共惟帝臣。

③潛夫論、愛日篇：國之所以爲國者、以有民也。民之所以爲民者、以有穀也。穀之所以豐殖者、以有人功也。功之所以能建者、以日力也。治國之日舒以長、故其民閒暇而有餘、亂國之日促以短、故其民困務而力不足。

④太平御覽、休徵部：春秋佐助期曰虞舜之時、景星出房。

史記、天官書：天精而見景星、景星者、德星也、其狀無常、常出於有道之國。正義：景星狀如半月、生於晦朔、助月爲明、見則人君有德、明聖之慶也。尚書大傳：（舜十四紀）於是鄉雲聚、

俊又集、百工相和而歌卿雲。

西京雜記：雲則五色而爲卿、三色而成喬……此聖人之在上、則陰陽和風雨時也。

白虎通封禪：天下太平、符瑞所以來至者、以爲王者承天統理、調和陰陽。……德至山陵、則景雲出。

諸家注

〔盧〕 なし。

〔三〕 光、大也。化者謂萬物化生。

景星、木星也。狀如半月、生於晦朔、助月爲明。王者不敢私人則見。堯時景星耀天、舜時有慶雲興焉。若烟非烟、若雲非雲、百工相和而歌、帝乃倡之曰慶雲爛兮糺縵縵兮。

〔錢〕 〔書經〕 帝光天下。

又〔潛夫論〕 化國之日、舒以長。

〔漢書音義〕 瑞星曰景、亦曰德星。狀如半月、生於晦朔、助月爲明。堯時景星耀天。

又〔西京雜記〕 瑞雲曰慶雲、或曰卿雲、五色爲慶、三色爲喬、舜時有慶雲興、非氣非烟、氤氳五色、百工之士、相和而歌。

〔周〕 〔虞書〕 舜帝光天之下、至於海隅、蒼生萬邦黎獻、共惟帝臣。

景星、一名德星、形如半月、助月而明。慶雲一曰瑞雲、其雲五色。舜時景星出、慶雲生。

三 夏時大禹在位、上天雨金。春秋・孝經既成、赤虹化玉。

〔訓読〕 夏時の大禹位に在りて、上天金を雨ふらし、春秋・孝經既に成

りて、赤虹玉に化す。

〔鄒注〕 大禹平治水土、功齊天地、是時天雨金三日、雨稻三日三夜。^①

〔搜神記〕 孔子修春秋、孝經既成、告於天、赤虹自天而下、化爲黃玉、長三尺、上有刻文、子跪而受之。^②

〔考〕 ①古今圖書集成、庶徵典雨異部彙考二夏后氏：禹八年雨金、按史記夏本紀不載、按竹書紀年禹八年夏六月雨金於夏邑、按述異記、

夏禹時天雨金三日。

述異記：大禹時、天雨稻、古詩云、安得天雨稻、飼我天下民。

②搜神記卷八：孔子修春秋、制孝經、既成、齋戒向北辰而拜、告備於天。天乃洪鬱起白雲摩地、赤虹自上而下、化爲黃玉、長三尺、上有刻文、孔子跪受而讀之、曰寶文出、劉季握、卯金刀、在軫北、字禾子、天下服。

〔諸家注〕

〔盧〕 なし。

〔三〕 大禹之時、天雨金三日。

〔搜神記云〕 孔子作春秋孝經、成告於天、忽有赤虹自上而下、化爲黃玉三尺、上有刻文。

〔錢〕 大禹時、天雨金三日。

〔搜神記〕 孔子修春秋孝經、既成、向北辰告、備於天、有赤虹、自上而下、化爲黃玉、長三尺、上有刻文、孔子受之。

〔周〕 〔史〕 禹平治水土、功同天地、是時天雨稻三日。

孔子修春秋孝經、既成、告備於天、赤虹自上而下、化爲黃玉、長三尺、上有刻文、孔子跪而受之。

三 箕好風、畢好雨、比庶民願欲不同、風從虎、雲從龍、比君臣會合不偶。

〔訓読〕 箕は風を好み、畢は雨を好むは、庶民の願欲の同じにあらざる

に比し、風は虎に従ひ、雲は龍に従ふは、君臣の會合の偶せざるに比す。

〔鄒注〕 〔書〕 庶民惟星、星有好風、星有好雨。〔按〕 箕、東北之木宿也。

風乃土之沖氣、以木克土、則飛騰上浮之象自感之、故箕不與風期而好風也。畢、西南之金宿也、雨乃水之精氣、以金生水、則蒸濕下降之象自感之、故畢不與雨期而好雨也。

〔易〕 雲從龍、風從虎、聖人作而萬物睹。^②

〔清暑筆談〕 龍、陽也。然爲陽中之陰、故龍之興雲、陽召明也。虎、陰也、然爲陰中之陽、故虎之生風、陰召陽也。^③

不偶(偶)、非適然也。

〔考〕 ①尚書、洪範：庶民惟星、星有好風、星有好雨。孔傳：星民象、

衆民惟若星、箕星好風、畢星好雨、亦民所好。(參考)正義：箕星好風者、箕東方木宿、風中央土氣、木克土爲妻、從妻所好、故好風也。畢星好雨者、畢星西方金宿、雨東方木氣、金克木爲

妻、從妻所好、故好雨也。

②易、乾卦、文言傳：九五曰飛龍在天、利見大人、何謂也。子曰同聲相應、同氣相求、水流濕、火就燥、雲從虎、聖人作而萬物

觀、本乎天者親上、本乎地者親下、則各從基類也。

③(明)陸樹聲清署筆談：陰陽遺之氣、專則不能生化、如天地交而爲泰、山澤通而爲咸、水合而爲濟、蓋交則爲用、故或以陰求陽、或陽求陰、或陽感而陰應、或陰合而從陽。龍、陽也、然爲陽中之陰、故龍之興雲、陽召陰也。然爲陰中之陽、故虎之生風、陰召陽也。

諸家注

〔盧〕箕・畢二星名。

〔三〕(書云)月經于箕星則多風、離于畢星則多雨。

(易云)雲從龍、風從虎。

〔錢〕「箕好風畢好雨」作「箕風畢雨」。「風從虎雲從龍」作「風虎雲龍」。

(道吾山房本、同上)

箕星好風、月行東北入於箕、則多風。畢星好雨、月行西南入於畢、則多雨。

(易經)雲從龍、風從虎、聖人作而萬物觀。

〔周〕箕星屬東北、木宿也。風乃土之冲氣、以木尅土、則飛騰上浮之象自應之而多風、是箕不與風期而好風也。畢宿、西南金宿也、雨乃水之精氣、以金生水、則蒸濕下降之象自應之而多雨、是畢不與雨期、而好雨也。

(周書)庶民惟星、星有好風、星有好雨。

(衍義)云風之從虎者、風木也。虎、金也。木受金制、安得不從、故虎嘯則風生、自然之理也。

(韓文)龍嘘氣成雲。夫龍陽也、然爲陽中之陰、故龍之與雲、陽

召陰也。虎陰也。然爲陰中之陽、故虎之生風、陰召陽也。不偶非適然也。

三 雨暘音羊時若係是休徵、天地泰音太交斯稱盛世。

訓詁 雨暘時若は是れ休徵に係り、天地泰交は斯れ盛世と稱す。

鄒注 〔書〕曰休徵、曰肅時雨若。〔釋〕暘、日出也。若、順也。休、美也。徵、驗也。

〔易〕泰、小往大來、吉亨。則是天地交而萬物通也、上下交而其志同也。〔釋〕小、小人。大、君子。天地以氣交、而萬物化生。通泰也。上君下臣、以心交而興道致治、故其志同也。

考 ①尚書、洪範：庶徵。曰雨、曰暘、曰燠、曰寒、曰風、曰時。五

者來備、各以其敘、庶草蕃廡、一極備凶、曰休徵(孔傳：叙美行之驗。曰肅、時寒若。(孔傳：君行敬、則時雨順之。曰乂、時暘若(孔傳：君行政治、則時暘順之。曰哲、時燠若。曰謀、時寒若。曰聖、時風若。

②易、泰卦：小往大來、吉亨。彖曰泰小往大來、吉亨。則是天地交而萬物通也。上下交而其志同也。內陽而外陰、內健而外順、內君子而外小人、君子道長、小人道消也。正義：上謂君也、下謂臣也。

諸家注

〔盧〕なし。

〔三〕若、順也。休、美也。徵、驗也。出書經洪範。

(易泰卦之傳云)泰之爲卦、坤陰在上、乾陽居下、天地陰陽、相

交而和、則萬物生成、故天地二氣相通也。

〔錢〕若、順。休、美。徵、驗。

言〔天地〕二氣相通也。

〔周〕暘、日出也。若、順也。休、美也。徵、驗也。

〔周書〕曰休徵、曰肅、時雨若。曰乂、時暘若。

泰通也。天地交而二氣通、故曰泰。

〔易〕曰天地交泰、后以裁成、天地之道、輔相天地之宜、以左右

民。

〔鄒聖脈增加文〕

三 大圓乃天之號、陽德爲日之稱。

訓誥 大圓は乃ち天の號、陽德は日の稱と爲す。

鄒注 〔晉束晰詩〕愀愀大圓^①。

〔類書〕曰爲陽德、又曰陽景。^②

考 ①文選卷十九、束晰補亡詩：愀愀大圓、芒芒九壤。

管子、心術篇下：人能正靜者、筋肋而骨強能戴大圓者、體乎大

方。（參考）管子纂註：大圓天也。大方地也。

②初學記、天部上 日 陽德、春秋內事曰：日者陽德之母。纂要

曰：日光曰景。

文選卷二十九、曹植情詩：微陰翳陽景、清風颺我衣。李善注曰：

春秋說題辭曰陽精爲日。

三 涿鹿野中之雲、綵分華蓋。柏梁臺上之露、潤涸金莖^音。

訓誥 涿鹿野中の雲、綵は華蓋を分ち、柏梁臺上の露、金莖を潤涸す。

鄒注 〔史記〕黃帝與蚩尤戰於涿鹿之野、有五色雲氣、金枝玉葉、結花

葩之象、覆于帝上、因作華蓋^①。

〔漢〕武帝起柏梁臺、作金莖、上有仙人掌、擎玉杯承露、和玉屑、

飲可長生。^②

考 ①史記、五帝本紀：蚩尤作亂、不用帝命。於是黃帝乃徵師諸侯、

與蚩尤戰於涿鹿之野、遂禽殺蚩尤。

〔晉・崔豹〕古今注、輿服：華蓋、黃帝所作也。與蚩尤戰於涿鹿

之野、常有五色雲氣、金枝玉葉、止於帝上、有花葩之象、故因

而作華蓋也。

②漢書、郊祀志：（漢武帝）其後又作柏梁、銅柱承露、仙人掌之屬矣。

師古注曰三輔故事云、建章宮承露盤、高二丈、大七圍、以銅

爲之、上有仙人掌承露、和玉屑飲之、蓋張衡西京賦所云、立修

莖之仙人掌、承雲表之清露、屑瓊蕊以朝餐、必性命之可度也。

○道吾山房本、「之」二字なし。

三 欲知孝子傷心、晨霜踐履。每見雄軍喜氣、晚雪銷融。

訓誥 孝子の傷心を知らせんと欲して、晨霜に踐履し、雄軍の喜氣を

見る毎に、晚雪は銷融す。

鄒注 尹吉甫聽後妻言、逐子柏奇、奇自傷無罪、清晨履霜、援琴鼓之、

因作履霜操。^①

〔唐〕李紳鎮揚州、章孝標賦春雪詩云、朱門到晚難盈尺、盡是三軍喜氣銷、紳覽乃奇之。^②

考

①初學記、天部下、霜、尹遂伯奇 琴操：履霜操者、伯奇之所作也、伯奇、尹吉甫之子也、甫聽其後妻之言、疑其孝子伯奇遂逐之、伯奇編水荷而衣之、采蘋花而食之、清朝履霜、而自傷無罪見放逐、乃援琴而鼓之。

②唐才子傳、章孝標傳：孝標字道正、錢塘人。李紳鎮淮東、孝標參座席、有詩名。時春雪、紳命札請賦、孝標索筆一揮云、六出花飛處處颺、黏窗拂砌上寒條、朱門到晚難盈尺、盡是三軍喜氣消。李大稱賞薦於主文。

○道吾山房本作「孝子愴懷、履晨霜而作操、雄軍喜氣、俾晚雪而消融」。

三 鄭公風一往一來、御史雨既霑音沾既足。

訓詁

鄭公の風、一たび往きて一たび來たる、御史の雨、既に沾ひ既に足る。

鄒注

〔孔煜會稽錄〕射的山南有白鶴山、此鶴爲仙人取箭。鄭弘嘗採薪於此、得一遺箭、頃有人來覓、弘還之、問所欲、乃曰、患若耶溪載薪爲難、願且南風、暮北風。後果然。今如故、呼爲鄭公風。^②
〔唐〕顏真卿爲御史、平原有冤獄不決、天大旱、顏至、獄決而雨、人稱御史雨。

考

①後漢書、鄭弘傳：鄭弘字巨君、會稽山陰人也。李賢注引孔靈符會稽記曰射的山南有白鶴山、此鶴爲仙人取箭。漢太尉鄭弘嘗采

薪、得一遺箭、頃有人覓、弘還之。問何所欲、弘識其神人也、曰常患若邪溪載薪爲難、願且南風、暮北風。後果然。故若邪溪風至今猶然、呼爲鄭公風也。

章宗源・隋書經籍志考證：愚按、寰宇記江南東道引射的百斛一百、躬的元斛一千之語稱孔煜記、御覽地部同引之則稱孔靈符、疑煜乃靈符名、而以字行、故宋書本傳祇稱靈符也。

②舊唐書、顏真卿傳：開元中學進士登甲科、事親以孝聞、命爲監察御史、充河西隴右軍試覆屯交兵使、五原有冤獄、久不決、真卿至立辯之、天方旱、獄決乃雨、郡人呼之爲御史雨。
○道吾本「御史」作「太子」、「霑」作「沾」。

三七 赤電繞樞而附寶孕、白虹貫日而荆軻歌。

訓詁

赤電樞を繞りて附寶孕み、白虹日を貫きて荆軻歌ふ。

鄒注

〔帝王世紀〕黃帝之母附寶、見電光繞北斗樞星、感之而孕。二十四月而生帝、日角龍顏。^①

〔史記〕荆軻入秦王、燕太子丹送於易水、軻歌曰、風蕭蕭兮易水寒、壯士一去兮不復還。精誠感天、白虹貫日。^②

考

①晉・皇甫謐、帝王世紀：黃帝有熊氏、少典之子、姬姓也。母曰附寶、其先卽炎帝、母家有蟠氏之女、世與少典氏婚、故國語兼稱焉。及神農氏末、少典氏又取附寶、見大電光繞北斗樞星照郊野、感附寶、孕二十五月、生黃帝於壽邱、長於姬水、因以爲姓、日角龍顏、有聖德、受國于有熊。

②史記、荆軻傳：太子及賓客知其事者、皆白衣冠以送之。至易水

之上、既祖取道、高漸離擊筑、荆軻和而歌、爲變徵之聲、士皆垂淚涕泣。又前而爲歌曰、風蕭蕭兮易水寒、壯士一去兮不復還。復爲羽聲恍惚、士皆瞑目、髮盡上指冠。於是荆軻就車而去、終已不顧。

史記、鄒陽傳：昔者荆軻慕燕丹之義、白虹貫日、太子畏之。集解：應邵曰、燕太子丹質於秦、始皇帝遇之無禮、丹亡去、故厚養荆軻、今西刺秦王。精誠感天、白虹爲之貫日也。

三 太子庶子之名、星分前後。早年遼年之占、雷辨雌雄。

〔訓読〕 太子庶子の名、星は前後を分ち、早年遼年の占、雷は雌雄を辨ず。

〔鄒注〕〔晉書天文志〕三星、天王正位也。中星曰明堂正位、前星太子星、後庶子星。^①

〔節曠占〕雷初發、其音格格霹靂者、乃雄雷、早氣。其音依依不霹靂者、乃雌雷、水氣。^②

〔考〕①晉書、天文志：心三星、天王正位也。中星曰明堂、天子位、爲

大辰、主天下之賞罰。天下變動、心星見祥、星明大、天下同。前星爲太子、後星爲庶子。心星直則王失勢。

②太平御覽、天部雷：師廣占曰、春雷初起、其音格格霹靂者、所謂雄雷、早氣也。其鳴依依音不霹靂者、謂之雌雷、水氣也。

三 元 中台爲鼎籍音頂之司。東壁是圖書之府。

〔訓読〕 中台は鼎籍の司たり、東壁は是れ圖書の府。

〔鄒注〕 鼎籍音頂奈。三台星、中台爲公卿。^①

東壁星、主天下圖書、明人君好文、圖書集。^②

〔張說詩〕 東壁圖書府、西園翰墨林。^③

〔考〕①晉書、天文志：三台六星、兩兩而居、起文昌、列抵太微。一曰

天柱、三公之位也。在人曰三公、在天曰三台、主開德宣府。西

近文昌二星曰上台、爲司命、主壽。次二星曰中台、爲司中、主

宗室。……又曰三台爲天階、太一躡以上下。一曰泰階。上星爲

天子、下星爲女主。中階、上星爲諸侯三公、下星爲卿大夫。

②同天文志：東壁二星、主文章、天下圖書之祕府也。星明、王者

興、道術行、國多君子。星失色、大小不同、王者好武、經士不

用、圖書隱。星動、則有土功。

③張說之文集卷五：恩制賜食於麗書院宴賦得林字：東壁圖書府、

西園翰墨林、誦詩聞國政、講易見天心、位竊和羹重、恩叨醉酒

深、緩歌春興曲、情竭爲知音。

四 魯陽苦戰揮西日、日返戈頭。諸葛神機祭東風、風回蘇音下。

〔訓読〕 魯陽の苦戦に西日を揮ねば、日は戈頭に返り、諸葛の神機東風

を祭れば、風蘇下音に回る。

〔鄒注〕〔淮南子〕魯陽公韓搆難、戰酣日暮、援戈揮之、日返三舍。^①

蘇音導。周瑜破曹、冬月閒無東風、瑜患之、諸葛亮乃登臺以祭、

瑜視旗蘇皆颺而西、因大驚。^②

考 ①淮南子、覽冥訓：魯陽公韓構難、戰酣日暮、援戈而搗之、日爲之反三舍。

②三國演義第四十九回―七星壇諸葛祭風、三江口周瑜縱火―參照。
○道吾山房本「苦戰」、「神機」四字なし。

四 東先生精神畢至、可禱三日之霖。張道士法術頗神、能作五里之霧。

訓読 東先生精神畢く至り、三日の霖を禱るべく、張道士法術頗る神、能く五里の霧を作す。

鄒注 東晰天旱禱雨、雨降。民歌曰、東先生通神明、請天三日雨甘霖、我黍以育、我稷以生、何以酬之、報東先生^①。

〔後漢〕張楷字公超、隱居弘農、學者隨之、所居成市、好道術、能爲五里霧、後華山南、有公超霧市。

考 ①晉書、束晰傳：太康中、郡界大旱、暫爲邑人請雨、三日而雨注、衆謂哲誠感爲作歌曰、東先生、通神明、請天三日甘雨霖、我黍以育、我稷以生、何以疇之、報東長生。

②後漢書、張楷傳：楷字公超、通嚴氏春秋、古文尚書、門徒常百人。……司隸學茂才、除長陵令、不至官、隱居弘農山中、學者隨之、所居成市、後華陰山南遂有公超市。……性好道術、能作五里霧。

○道吾山房本「精神畢至」作「精誠感召」。

三 兒童爭曰、如盤如湯。辯士論天、有頭有足。

訓読 兒童日を争へば、盤の如く湯の如く、辯士天を論ずれば、頭も有り足も有り。

鄒注 孔子出游、見兩小兒辨曰。一曰日初出如車輪、其中時乃如盤、此遠者小、近者大。一曰日初出蒼蒼涼涼、其中時如探湯、此近者熱、遠者涼。孔子不能決。^①

〔蜀志〕吳使張溫來聘、溫問秦宓曰天有頭乎。宓曰有、頭在西方、詩曰、乃眷西顧。溫曰天有耳乎。宓曰天處高明而聽卑、詩云、鶴鳴于九臯、聲聞於天。溫曰天有足乎。宓曰詩云、天步艱難、若無足何以能步。溫曰天有姓乎。宓曰姓劉。溫曰何以知之。宓曰天子姓劉、以此知之。^②

考 ①列子、湯問篇：孔子東游、見兩小兒辯鬪、問其故。一兒曰我以日始出時、去人近、而日中遠也。一兒以日初出遠而日中時近也。一兒曰日初大如車蓋、及日中、則如盤盂、此不爲遠者小、近者大乎。一兒曰日初出滄滄涼涼、及日中如探湯、此不爲近者熱而遠者涼乎。孔子不能決也。兩小兒笑曰孰爲汝多知乎。

②三國志、蜀書、秦宓傳：秦宓字子勅、廣漢縣竹人也。……吳遣使張溫來聘、百官皆往餞焉。……（秦宓）及至、溫問曰君學乎。宓曰五尺童子皆學、何必小人。溫復問曰天有頭乎。宓曰有之。溫曰在何方也。宓曰在西方、詩曰、乃眷西顧、以此推之、頭在西方。溫曰天有耳乎。宓曰天處高而聽卑、詩云、鶴鳴于九臯、聲聞于天、若其無耳、何以聽之。溫曰天有足乎。宓曰有、詩云、天步艱難、之子不猶、若其無足、何以步之。溫曰天有姓乎。宓

曰有。溫曰何姓。宓曰姓劉。溫曰何以知之。答曰、天子姓劉、故以此知之。溫曰日生於東乎。宓曰雖生于東而沒於西。答問如響、應聲而出、於是溫大敬服。

望 月離畢而雨候將徵、星孛辰而火災乃見。

訓讀 月畢に離りて雨候將に徵せんとし、星辰に孛んにして火災乃ち見る。

鄒注 〔詩〕月離于畢、俾滂沱矣。〔釋〕蓋畢宿喜雨、故云。

〔左〕昭公十八年、有星孛於辰。申須曰、諸侯其有火災乎。鄭裨竈曰鄭若用瑾珥玉瓚厭之、必不火。子產曰、天道遠、人道邇、非爾所知也。

考 ①詩經、小雅、漸漸之石：月離于畢、俾滂沱矣。傳：畢、囑也、月

離陰星則雨。箋云將有大雨、微氣先見於天。正義：洪範曰、星有好風、星有好雨者、即此畢是也。

②左傳、昭公十七年：冬、有星孛于大辰、西及漢。申須曰、慧所以除舊布新也。天事恆象、今除於火、火出必布焉、諸侯其有火災乎。……鄭裨竈言於子產曰宋·衛·陳·鄭將同日火、若我用瑾珥玉讚、鄭必不火。子產弗與。

昭公十八年：夏五月、火始昏見。……裨竈曰不用吾言、鄭又將火。鄭人請用之、子產不可。子大叔曰、竇以保民也、若有火、國幾亡、可以救亡、子何愛焉。子產曰、天道遠、人道邇、非所及也、何以知之、竈焉知天道、是亦多言矣、豈不或信。遂不與、亦不復火。

○道真山房本「將」「乃」二字なし。

付録一、周達用增補本文

天也者、分二氣而行四時、定三光而照六合。愀愀大圓、尊無二上、巍巍托體、域中四大。任共工之觸折、賴女媧之補成、是不可階而升者、豈可以管而窺也。至於日、為陽德之稱、朱明是其別號。兩日並照、兩儀轉輪。魯公戈揮、日返三舍、虞公劍指、日不沈西。月乃上天之使、重輪綵耀、七寶合成。感月精而夏禹興、夢月懷而孫權出。月暈七重、漢圍不解。若夫萬物之精、上天之星、森羅纍纍若貫珠、錯綜輝煌如連壁。東壁者、上帝之圖書、北斗者、六官之喉舌。長庚兆於李白、昴宿應於蕭何。風者、既隨虎嘯而生、又逐鷲鳴而起。黃帝得吹塵之夢卜相求賢。重華與解慍之歌代天理物。雲為山川之氣、黃雲升於堂、表虞帝將興之兆。雷乃上天之怒、烈雷聞於座、震先生失筋之威。御史雨既沾既足。漢宮露、如脂如飴。夏月飛霜、既見桀王之昏暴、冬夜映雪、光涵士子之詩書。

付録二、復旦大学出版社瓊林增加文

人文進化、天象益明。六合所包、皆為積氣、兩儀所造、莫非自然。日為恒星、隔地乃暗、月亦圓體、背日見亏。月掩日曰日食、地掩月曰月食。水金土木諸星、為太陽系之環繞、雲霧雨露諸象、皆水蒸氣所化成。雨結為冰、小成霰、大成雹、汽遇驟冷、高為雪、下為霜。冷熱二氣相鼓蕩、則生風、劇者為颶、陰陽二氣相搏激、則發電、響即成雷。日光透雨、彩

暈如環、謂之虹、星芒燭天、尾形如帚、謂之彗。天河乃星群之簇聚、霞光亦日色所映成。昔之占驗覓諸虛、謂與人事相應、今之推步証諸實、見爲天象之常。

九補資暇集(唐)李匡父、急急如律令条・符祝之類、末句急急如律令者、人皆以爲如飲酒之律令、速去不得滯也。一說漢朝每行下文書、皆云如律令、言非律非令之文書行下、當亦如律令。故符祝之類、末句有如律令之言。並非之也。案律之令字、宜平聲讀爲零。律令是雷邊捷鬼、學者豈不知之。比鬼善走、與雷相疾速、故云如比鬼之疾走也。

一九八九 十九

(付記) この「幼學瓊林初探上下」は、福岡大学人文学部講師の甲斐勝二、九州大学文学部助手の東英寿との共同制作である。